

## 数学の出題のねらい

数 I・Aに関する基本的な事項の習得度合いおよびその応用力をみることをねらいとしています。具体的には、基礎的な計算能力、確率を事象の考察に活用する能力、関数について考察する能力、定理を図形の計量に応用する能力などを総合的にみることを意図した出題を心掛けました。

## 第 1 問

問題 1

$$2x^2 - xy - 6y^2 + 9x + 17y - 5 = (2x + 3y - 1)(x - 2y + 5)$$

問題 2

490 = 2 · 5 · 7<sup>2</sup> より,  $\frac{m}{490}$  が既約分数であるとき,  $m$  は 2, 5, 7 の倍数ではない.

$\frac{4}{7} = \frac{280}{490}$ ,  $\frac{3}{5} = \frac{294}{490}$  であるから,  $\frac{4}{7} < \frac{m}{490} < \frac{3}{5}$  を満たす整数  $m$  は

281, 282, 283, 284, 285, 286, 287, 288, 289, 290, 291, 292, 293

のうちのいずれかの数値である. これらのうち,

282, 284, 286, 288, 290, 292 は 2 の倍数,

285, 290 は 5 の倍数,

287 は 7 の倍数である.

したがって,  $m$  の値は, 281, 283, 289, 291, 293 である.

問題 3

$x$  の平均は 320.  $y$  の平均は 38.2. 共分散は -1112.

## 第2問

### 問題1

乗法定理を用いて、

$$\begin{aligned}P(\text{赤}) &= P(A \cap \text{赤}) + P(B \cap \text{赤}) + P(C \cap \text{赤}) \\&= P(A) \times P(\text{赤}|A) + P(B) \times P(\text{赤}|B) + P(C) \times P(\text{赤}|C) \\&= \frac{1}{3} \times \frac{8}{8+2} + \frac{1}{3} \times \frac{3}{3+9} + \frac{1}{3} \times \frac{4}{4+4} \\&= \frac{4}{15} + \frac{1}{12} + \frac{1}{6} \\&= \frac{16+5+10}{60} \\&= \frac{31}{60}\end{aligned}$$

### 問題2

$$\begin{aligned}P(A|\text{赤}) &= \frac{P(A \cap \text{赤})}{P(\text{赤})} \\&= \frac{4}{15} \div \frac{31}{60} \\&= \frac{4}{15} \times \frac{60}{31} \\&= \frac{16}{31}\end{aligned}$$

### 第3問

#### 問題1

$F(x) = f(x) - g(x)$ とすると、任意の実数  $x$  に対して  $f(x) > g(x)$  が成り立つことは  $F(x)$  の最小値が正であることと同じである。

$$\begin{aligned} F(x) &= 3x^2 - 6ax + 10 - (2x^2 - 4ax + 3a) \\ &= (x - a)^2 - a^2 - 3a + 10 \end{aligned}$$

したがって、 $F(x)$  は  $x = a$  のとき最小値  $-a^2 - 3a + 10$  をもつので、

$$-a^2 - 3a + 10 > 0$$

$$(a + 5)(a - 2) < 0$$

ゆえに、

$$-5 < a < 2$$

#### 問題2

$y = f(x)$  のグラフを  $y$  軸方向に  $-8$  平行移動したグラフを表す式は、

$$y - (-8) = 3x^2 - 6ax + 10$$

$$y = 3x^2 - 6ax + 2$$

よって、

$$\begin{aligned} h(x) &= 3x^2 - 6ax + 2 \\ &= 3(x - a)^2 - 3a^2 + 2 \end{aligned}$$

$y = g(x)$  のグラフを原点に関して 対称移動したグラフを表す式は、

$$-y = 2(-x)^2 - 4a(-x) + 3a$$

$$y = -2x^2 - 4ax - 3a$$

よって、

$$\begin{aligned} l(x) &= -2x^2 - 4ax - 3a \\ &= -2(x + a)^2 + 2a^2 - 3a \end{aligned}$$

任意の実数  $x_1, x_2$  に対して、 $h(x_1) > l(x_2)$  が成り立つことは、

$$h(x) \text{ の最小値} > l(x) \text{ の最大値}$$

であることと同じである。 $h(x)$  は  $x = a$  のとき最小値  $-3a^2 + 2$  をもつ。 $l(x)$  は  $x = -a$  のとき最大値  $2a^2 - 3a$  をもつ。したがって、

$$-3a^2 + 2 > 2a^2 - 3a$$

$$5a^2 - 3a - 2 < 0$$

$$(a - 1)(5a + 2) < 0$$

ゆえに、

$$-\frac{2}{5} < a < 1$$

## 第4問

### 問題1

△ABDにおいて余弦定理より、

$$\begin{aligned}BD^2 &= AB^2 + AD^2 - 2 \cdot AB \cdot AD \cdot \cos \angle BAD \\ &= 36 + 16 - 48 \cdot \left(-\frac{1}{2}\right) \\ &= 76 \\ BD &= 2\sqrt{19}\end{aligned}$$

平行四辺形ABCDの対角線の交点Eは対角線の中点であるから、

$$BE = DE = \frac{1}{2}BD = \sqrt{19}$$

△ACDにおいて点Gは中線AF, DEの交点であるから重心である。したがって、

$$\begin{aligned}DG : EG &= 2 : 1 \\ EG &= \frac{1}{3}DE = \frac{\sqrt{19}}{3} \\ BG &= BE + EG = \frac{4}{3}\sqrt{19}\end{aligned}$$

## 問題 2

$\triangle ACD$ において点Gは重心であるから,

$$AG : FG = 2 : 1$$

$\triangle BCD$ において点Hは中線BF, CEの交点であるから重心である. したがって,

$$CH : EH = 2 : 1$$

すなわち,

$$CE : EH = 3 : 1$$

平行四辺形ABCDの対角線の交点Eは対角線の中点であるから,

$$AE = CE$$

したがって,

$$AE : EH = 3 : 1$$

$\triangle AHF$ において線分AN, EF, HGが点Oで交わるのでチェバの定理より,

$$\frac{AE}{EH} \cdot \frac{HN}{FN} \cdot \frac{FG}{AG} = 1$$

$$\frac{3}{1} \cdot \frac{HN}{FN} \cdot \frac{1}{2} = 1$$

$$FN : HN = 3 : 2$$

### 問題 3

$\triangle BCD$ において点Hは重心であるから、

$$BH : FH = 2 : 1$$

なので、 $BH = 2FH$ .

問題 2 より、

$$FN : HN = 3 : 2$$

から、 $FH = FN + HN$ なので、 $FN = \frac{3}{5}FH$ 、 $HN = \frac{2}{5}FH$ .

したがって、

$$\begin{aligned} BN : FN &= (BH + HN) : FN \\ &= \left( 2FH + \frac{2}{5}FH \right) : \frac{3}{5}FH \\ &= 12 : 3 \\ &= 4 : 1 \end{aligned}$$

$\triangle BFG$ と線分ANについてメネラウスの定理より

$$\frac{FN}{BN} \cdot \frac{BM}{GM} \cdot \frac{AG}{AF} = 1$$

$$\frac{1}{4} \cdot \frac{BM}{GM} \cdot \frac{2}{3} = 1$$

$$BM = 6GM$$

したがって、 $BG = BM + GM$ 、また問題 1 より  $BG = \frac{4}{3}\sqrt{19}$ なので、

$$GM = \frac{1}{7}BG = \frac{4}{21}\sqrt{19}$$